



平成 30 年度国立大学図書館協会東京地区  
地区助成事業報告書

# 国立大学図書館協会東京地区 LibrarianMap (プロトタイプ版) の構築



平成 31 (2019) 年 3 月

平成 30 年度国立大学図書館協会東京地区  
地区助成事業 企画・運営メンバー

安達 修介 (東京大学)、若山 勇人 (東京藝術大学)、  
森澤 里名 (東京工業大学)、星野 遼 (東京海洋大学)、  
石橋 優花 (お茶の水女子大学)、三村 千明 (国立情  
報学研究所) / 茂出木 理子 (東京工業大学・世話役)



本報告書は、クリエイティブ・コモンズ表示 4.0  
国際パブリック・ライセンスの下に提供されています。

## 趣旨

本報告書は、平成 30 年度国立大学図書館協会東京地区地区助成事業の企画として行った、Web サイト「LibrarianMap(プロトタイプ版)」構築に関するものである。企画構想の背景となった問題意識から、具体的な検討経緯、実装面での工夫、考察と展望までをまとめた。

## 目次

<b>1. 事業概要</b>	<b>1</b>
1.1. LibrarianMap (プロトタイプ版) の構築	1
1.2. 東京地区会員館への企画説明	2
1.3. オープンディスカッションの開催	3
1.4. 報告書の作成	3
<b>2. 問題意識</b>	<b>3</b>
2.1. 「人」の情報の可視化、及び機関の枠を越えた職員同士のネットワークの強化	4
2.2. 図書館外へのアピール	5
<b>3. 手段の検討</b>	<b>6</b>
3.1. 企画の検討～なぜ「LibrarianMap」か	6
3.2. ツールの検討～なぜ「MediaWiki」か	7
3.2.1. Web 版と PDF 版	7
3.2.2. Web 版のためのツール	8
3.3. 公開方法の検討～なぜ「限定的な公開方式」か	9
<b>4. LibrarianMap の実装面の工夫</b>	<b>10</b>
4.1. 登録を促進するための工夫	10
4.1.1. マイページ	10
4.1.2. マイページ登録のヘルプページ作成	10
4.1.3. 規約類の整備	11
4.2. 「職員同士のネットワーク」を強化するための工夫	11
4.2.1. カテゴリ機能	11
4.2.2. 地図表示	12
4.2.3. 多様な検索手段	12
<b>5. 事業の成果と展望</b>	<b>13</b>
5.1. 今年度の成果	13
5.2. 今後の展望	15
<b>6. 1 年間を振り返って (企画・運営メンバーから)</b>	<b>16</b>

## 付属資料

別紙 1. 平成 30 年度東京地区地区助成事業実施関係者一覧

別紙 2-1. 2019 年 1 月 LibrarianMap 登録開始時資料①LibrarianMap（プロトタイプ版）登録のご案内

別紙 2-2. 2019 年 1 月 LibrarianMap 登録開始時資料②LibrarianMap アンケート

別紙 2-3. 2019 年 1 月 LibrarianMap 登録開始時資料③個別訪問とオープンディスカッションでいただいた意見とその対応について

別紙 3. オープンディスカッション開催案内

別紙 4. 個別訪問とオープンディスカッションでいただいた意見（まとめ）

別紙 5-1. LibrarianMap 規約文書①利用規約

別紙 5-2. LibrarianMap 規約文書②プライバシーポリシー

別紙 6. 平成 30 年度の活動記録

## ロゴマークについて

LibrarianMap（プロトタイプ版）のロゴマークは、一橋大学附属図書館の南雲修司さんによって制作された。

図書館の略字である「くにがまえ」に「ト」の「ト」をモチーフとしたデザインであり、「ト」と「ト」が握手して「Map」の頭文字「M」を形作ることで、LibrarianMap の目的の一つである人と人との出会いを表している。



## 1. 事業概要

平成 30 年度の国立大学図書館協会（以下「国大図協」という。）東京地区地区助成事業では、「LibrarianMap（プロトタイプ版）」を構築した。例年、東京地区では、地区助成事業として若手職員による研修会の企画と開催に取り組んでいたが、本年度は若手職員による企画は継承しつつ、研修会を離れた全く新しい企画である。平成 30 年度は、東京地区の東側に位置する 6 つの大学、機関から 6 名の企画・運営メンバーが組織され、企画に取り組んだ（別紙 1「平成 30 年度東京地区地区助成事業実施関係者一覧」参照）。なお、本企画は 2 年間程度の試行事業として行い、評価を経て、その後の継続の可能性や方針について検討する。

①LibrarianMap（プロトタイプ版）の構築、②東京地区会員館への企画説明、③LibrarianMap の機能及び役割について検討するオープンディスカッションの開催、④詳細な報告書（本報告書）の作成、について、以下、順を追って説明する。

### 1.1. LibrarianMap（プロトタイプ版）の構築

LibrarianMap（プロトタイプ版）は、「各自の経験、知識、スキルを「見える化」することで、所属機関を越えてネットワークを広げるとともに、国大図協東京地区の人的リソースを最大限に活用すること」を主たる目的とした Web サイトで、図書館員が自らのデータ（所属、連絡先、経歴、業務記録、興味関心事、論文発表等の実績等）を自身で登録するものである。レンタルサーバにフリーソフトの MediaWiki を使って構築し、basic 認証によりアクセス時に ID・パスワードが要求される限定的な公開方式とした。ID・パスワードは、年 1 回更新する予定である。データ登録可能者は、基本的に原則として国大図協関係者とした。それぞれの範囲は以下のとおりである。

#### ① 閲覧可能者

- ・ 国大図協東京地区会員館、国大図協他地区等の登録者
- ・ 外部有識者（オープンディスカッション参加者等）

#### ② データ登録者（編集アカウント取得・マイペー

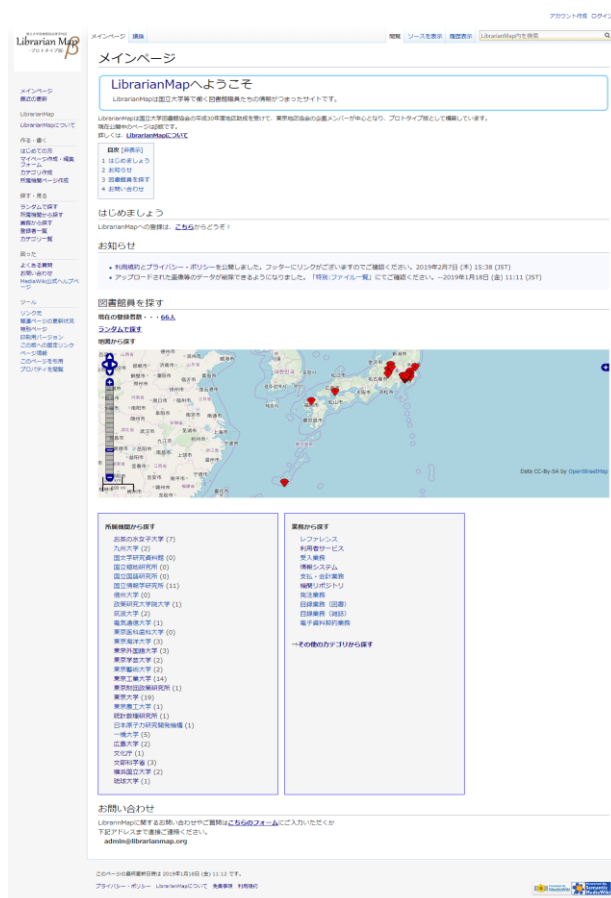


図 1 LibrarianMap（プロトタイプ版）のトップページ

ジ作成が可能な人)

- ・ 国大図協東京地区関係者、国大図協他地区の職員等

LibrarianMap (プロトタイプ版)

URL : <https://ex.librarianmap.org/>

2018年7月にMediaWikiをインストールしてサイトを構築し始め、2018年9月からβ版として、企画・運営メンバーを中心とした関係者でテストデータの登録を開始した。2019年1月に、国大図協東京地区会員館に対して、正式に登録の依頼を行った<sup>1</sup>。2019年3月20日現在の登録者数は67名(国大図協東京地区58名、国大図協他地区4名、その他5名)である。なお、登録依頼と同時に、登録を希望しない人にはアンケート<sup>2</sup>への協力を依頼し、2019年3月20日現在、12名から回答があった。アンケートの結果によると、登録を見送った主な理由は、「自分の情報を他の職員に見られたくないから」「LibrarianMapのセキュリティに不安があるから」「再来年度以降の継続性に疑問があるから」「既存のツールがあれば十分だから」等であった。

LibrarianMap構築に至るまでの経緯や、構築するにあたりMediaWikiを選択した理由、LibrarianMapの詳細等は、「2.問題意識」以降で詳述する。

## 1.2. 東京地区会員館への企画説明

2018年の7月から11月にかけて、東京地区会員館及び近郊の関係機関を、企画・運営メンバーが手分けし、個別訪問して、企画説明を行い、各館の職員との意見交換を行った。訪問の日程は以下のとおりである。

2018年7月23日	一橋大学(理事館への事前説明)
2018年7月24日	東京大学(理事館への事前説明)
2018年10月4日	国文学研究資料館、統計数理研究所、国立極地研究所
2018年10月5日	東京学芸大学、東京農工大学
2018年10月9日	一橋大学、政策研究大学院大学
2018年10月10日	電気通信大学、東京外国語大学
2018年10月11日	東京医科歯科大学
2018年10月12日	国立国語研究所

---

<sup>1</sup> 別紙2-1「2019年1月LibrarianMap登録開始時資料①LibrarianMap(プロトタイプ版)登録のご案内」を参照

<sup>2</sup> 別紙2-2「2019年1月LibrarianMap登録開始時資料②LibrarianMapアンケート」を参照

2018年11月9日 東京大学（東京大学附属図書館研修プロジェクトとして実施）

企画・運営メンバーの所属機関（東京藝術大学、東京工業大学、東京海洋大学、お茶の水女子大学、国立情報学研究所）については、企画・運営メンバーそれぞれが、自館での説明会を行った。

いただいた意見とそれに対する回答は別紙2-3「2019年1月 LibrarianMap 登録開始時資料③個別訪問とオープンディスカッションでいただいた意見とその対応について」にまとめているが、一番多かったのは、当初予定していた、認証なしでの LibrarianMap 公開についての意見だった。LibrarianMap 自体の作成については肯定的な意見が多かったが、認証なしでの公開については、全体的に不安の声が多く聞かれた。

### 1.3. オープンディスカッションの開催

LibrarianMap の機能や役割について広く意見を求めるため、2018年10月23日に、東京工業大学蔵前会館において、オープンディスカッションを開催した<sup>3</sup>。参加者は28名で、企画・運営メンバーのほか、国大図協東京地区関係者が12名、国大図協他地区関係者が2名、その他図書館情報学の教員や私立大学図書館関係者等が7名と、幅広い分野から参加があった。①LibrarianMap の意義・可能性、②公開範囲及びセキュリティ／想定されるリスクとその対応、③掲載項目／フォーマット／機能の拡張、の3点を中心に、単なる一問一答のやりとりに収まらない、具体的かつ前向きな議論が行われた。

オープンディスカッションでも LibrarianMap は肯定的に受け止められた。認証なしでの公開については、東京地区会員館訪問時とは逆に、積極的に広く公開することへの期待の声も多数あった。

### 1.4. 報告書の作成

定型の「実施報告書」に加え、詳細な報告書（本報告書）を作成し、国立大学図書館協会 Web サイト上にて公開した。また、国公立大学図書館協力委員会が刊行する「大学図書館研究（Online ISSN：2186-103X）」等への投稿も検討している。

## 2. 問題意識

今回新たに企画を立案する上で前提となったのは、我々大学図書館員には以下の2つが必要なのではないか、という考えである。

1. 「人」の情報の可視化、及び機関の枠を越えた職員同士のネットワークの強化

---

<sup>3</sup> 別紙3「オープンディスカッション開催案内」を参照

## 2. 図書館の外側へのアピール

2018年6月のキックオフミーティングにおいて問題意識を共有し、この2つを出発点として今年度の企画の検討を開始した。以下、それぞれ詳しく説明する。

### 2.1. 「人」の情報の可視化、及び機関の枠を越えた職員同士のネットワークの強化

企画・運営メンバーから共通して挙げられた問題意識として、以下のようなものがあった。

- ・ 業務で困ったときに頼れる人が少ない
- ・ 同世代で同じように働いている人の知り合いが少ない
- ・ 機関横断型の研修くらいでしか他機関の職員と接する機会がない
- ・ 名刺を交換した後も継続的につながり連絡が取れるような人を増やしたい

地区助成事業としての企画を考える上でも、このような実感は大きな制約となった。すなわち、何か機関の枠を越えた研修以外の企画をやりたいという案が挙がっても、そもそも他機関の様子やそこで働く職員のことを詳しく知らない、知る術がない、そのため具体的な動き出しのイメージができないという状態であった。このことが結果的に LibrarianMap という企画の構想につながったという面もある。

こういった問題意識を抱えているのはもちろん企画・運営メンバーばかりではない。LibrarianMap の構想を会員館に説明して回った際にも、たとえば以下のような意見があった。特に小規模機関において、こうした問題意識を持っている職員が多かった。

- ・ 「あの人は誰?」「あの人は今どこに?」といった疑問を解消できるのはとても助かる
- ・ 他大学でもいいから、こんなスキルや経験のある人の話を聞きたいという要望は、図書館関係者で話していると多くあがる
- ・ 各職員の専門性・経験が、実務担当者に共有されていないのはもったいないと思っていた
- ・ 少ない人数で業務をこなしている都合上、自分たちだけではやりたくてもできない部分がある
- ・ 将来のキャリアプランの目標になる人が見つかるとうい

一方で、平成28(2016)年6月の第63回国立大学図書館協会総会で採択された「国立大学図書館機能の強化と革新に向けて ～国立大学図書館協会ビジョン2020～」の3つの重点領域のうちの1つに「新しい人材：知の共有・創出のための<人材>の構築」が挙げられている。

大学図書館は、さまざまな能力やスキルを有する人材が混在するハイブリッド（複合的）な人材の集合体を形成することで、大学図書館に期待される新たな役割を果たすとともに、多様な知の共有と創出を促す。そのために、新たな人材の構築が実現できるような制度を整備する。<sup>4</sup>

大学図書館の職員数が減少していく中で、「さまざまな能力やスキルを有する人材」が「人材の集合体」として相互に連携していく必要はますます高まっていくと考えられる。また、電子ジャーナルの購読に係る費用増<sup>5</sup>に代表されるように、図書館、あるいは大学自体の予算が逼迫している中で、限られた人材と予算で「大学図書館に期待される新たな役割を果たす」、「多様な知の共有と創出を促す」ことがますます求められている。

こうした厳しい状況に対処するため、先述したような個々の職員の実感をベースとしながら、具体的な手段を提示し、そして実際に動き出していく必要がある。

まずは、どのような職員が働いているのかすら「そもそも知らない」という状況に対し、個人が自分の持っている経験やスキルを自覚し、それを可視化することが必要ではないか。実は膨大な知識や貴重なスキルを持っているにもかかわらず、今まで「表」には出る機会がなかったような人に光が当たるきっかけになるかもしれない。仮にそういうものは持っていないとしても、自分ができることや興味のあることを自覚して発信するという作業は今後避けては通れない。

その上ではじめて、個人に、あるいは自機関に、今足りていないものは何か、そしてそれを、機関を越えた職員の集合体の中でどのように補い合うことができるか、という発想が生まれる。

そして機関の枠を越えて職員同士が互いのことを知りたい時に知ることができる、必要があれば互いにつながれる、そのような人的ネットワーク構築のための最低限の基盤を作っておきたい。

## 2.2. 図書館外へのアピール

学習、教育、研究の形態の変化や学術コミュニケーションの変容等に伴って、大学図書館に求められる役割はますます多様化している。少ない人材と予算の中でも、こうした要求に応えていくためにはどうすればよいだろうか。

対応策としては、それぞれの業務分野において機関相互の関係を強める、図書館内外の新

---

<sup>4</sup> <https://www.janul.jp/sites/default/files/2018-05/janul-2020vision.pdf>

<sup>5</sup> プレスリリース「大学における学術雑誌購読の危機的状況が深刻化」国立大学図書館協会, 2018.1

[https://www.janul.jp/j/operations/requests/janul\\_press\\_release\\_2018\\_01\\_18.pdf](https://www.janul.jp/j/operations/requests/janul_press_release_2018_01_18.pdf)



しい動きにキャッチアップしていく、これまで以上に大学内外へのアピールを強めていく、といったことが考えられる。前節の電子ジャーナルをめぐる話題で言えば、たとえば大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）や国立情報学研究所の国際学術情報流通基盤整備事業（SPARC Japan）の活動が挙げられるだろう。

一方で、各業務分野における活動とは別に、一図書館員として、自分の持っている経験やスキルを自覚し、図書館の内部で起こっていることや自分が担っている業務のことを、外部に向けてきちんと発信していくことも必要だと思われる。利用者への対応に留まらず、より広く「見せていく」「発信する」という意識や行動が、これからますます必要になってくるのではないかと<sup>6</sup>。

### 3. 手段の検討

前章で述べたような問題意識を出発点にして、企画・運営メンバー内で具体的な手段を検討していった。

検討にあたっては、東京地区会員館での企画説明・意見交換（2018年7～11月）やオープンディスカッション（2018年10月）等において、本事業の実際の担い手となる職員や、将来的に成果物を活用する可能性のある立場の方から多くの意見を集め、参考にした<sup>7</sup>。

#### 3.1. 企画の検討～なぜ「LibrarianMap」か

「LibrarianMap」は、東京工業大学の特色ある研究者の情報が参照できる Web サイト「Tokyo Tech Research Map<sup>8</sup>」に発想のヒントを得てスタートした。人の情報を「マップ」として可視化するという方法が、今まで見えていなかった各機関の職員の情報を可視化したいという企画・運営メンバーの関心と合致したからである。この可視化の性質をはっきり表すため、名称は早い段階で「LibrarianMap」に決まった。

『Tokyo Tech Research Map』が、研究者の関連情報のリンクを掲載し、深く知るためのナビゲーションのような性質が強いのに対し、LibrarianMap は、具体的な情報が直接掲

---

<sup>6</sup> 「(人件費の削減方針が続く状況の中で) 図書館専任職員を確保するには、大学の教育研究活動全体のなかで図書館が果たす役割を学内で広く認知させる必要がある。学術情報基盤や学習教育支援の拠点としての図書館の位置づけ、重要性を、大学構成員及び大学執行部に教育研究活動全般や経営の立場から再認識してもらうことが肝要である。」国立大学図書館協会人材委員会「図書館員の人事政策課題について(提言)」(2012.3)

<https://www.janul.jp/j/projects/hr/jinjiseisakukadai.pdf>

<sup>7</sup> 別紙4「個別訪問とオープンディスカッションでいただいた意見(まとめ)」を参照

<sup>8</sup> [https://www.titech.ac.jp/research/research\\_map.html](https://www.titech.ac.jp/research/research_map.html)

載されている形が良い]、「図書館員を研究者のように業務分野でマッピングすることは難しいが、『どこにどんな人がいるのか』が視覚的にわかるよう、登録者の所在地を地図上にマッピングして、将来的にはその点を日本中に増やしていきたい」といった構想も初期の段階で共有した。

### 3.2. ツールの検討～なぜ「MediaWiki」か

では、どのような形で LibrarianMap を作成するか、特にどのようなツールを使用するか、ということが続いての課題となった。

#### 3.2.1. Web 版と PDF 版

事業計画書の段階では、LibrarianMap を「Web 版」と「PDF 版」の二本立てで構築することを計画していた。それぞれの形態や特徴は以下のとおりである。

	Web 版	PDF 版→最終的に作成せず
公開範囲	一般、またはそれに近い範囲に対して広く公開	国大図協東京地区内のみで共有
対象者	登録希望者のみ	原則として、東京地区会員館 職員全員 (約 280 名)
データ収集方法	企画・運営メンバーからの個別呼びかけ、各館への説明	各館への一斉依頼 (事務連絡)
データ項目	所属、担当業務、氏名、自己紹介、業務実績、経験、スキル、現在の関心分野、発表論文、趣味、etc.	所属、担当業務、氏名、Web 版個人ページへのリンク
データ更新	本人による編集を基本に随時	年 1 回程度、会員館全体への照会による
重視すること	詳しさ、自由度の高さ	簡便さ、網羅性

結果として、PDF 版は作成しないこととした。これは「1.1.LibrarianMap (プロトタイプ版) の構築」で述べたとおり、公開範囲を国大図協関係者に限定したことにより、Web 版が PDF 版の役割を兼ねることは可能と判断したためである。

また、検討の途中では、PDF 版の代わりに「非公開 Web 版」を作成するという案もあつ

た。「サブドメインを利用してページ自体を『公開用』と『非公開用』の二本立てで構築し、外部向けと内部向けの情報を切り分ける」、「『公開用』のページの奥に『非公開用』を設けて置き、『ここから先の閲覧は認証が必要』という形にする」といった方法である。しかし、2種類のページを並行して管理するのは負担が大きいことや、同一サーバに「公開用」と「非公開用」のコンテンツを併存させ、ユーザーにページを行き来させることは、少なからずセキュリティ的な問題を孕むことから、採用には至らなかった。

### 3.2.2. Web版のためのツール

できる限り費用を抑えるため、作成ツールは無料のものを検討した。

デザイン性の高いドラッグ&ドロップのホームページ作成ツール「Wix.com」やその他のツールと並んで検討初期の段階から候補に挙がり、最終的に採用したのが、Wikipediaにも使用されているウィキソフト「MediaWiki<sup>9</sup>」である。MediaWikiの持つ以下のような特徴が、LibrarianMapの目指すところを実現する上で最も適当だと判断したためである。

#### ① ページの作成及び編集が容易

アカウント登録さえすれば、誰でも簡単にページの作成及び編集ができる。これは、図書館員自身に自らのデータを登録してもらうためには不可欠な条件であった。

#### ② 記法がシンプルである

MediaWikiは記法が簡潔（軽量マークアップ言語）で、初心者でも扱いやすい。最低限の記法さえ押さえておけば基本的なページの作成が可能である。これも1点目の容易なページ編集という条件に大きく寄与する。

#### ③ アカウントごとに権限を設定することができる

MediaWikiでは、管理用のアカウントとその他のアカウントで、ページの編集権限を切り分けることができる。また、拡張機能により特定のページについては特定のアカウントからしか編集できないよう制限をかけることも可能である。これによって、利用規約やプライバシーポリシーは企画・運営メンバー以外は編集できないよう保護したり、個人ページは本人しか編集できないよう制限をかけたたりすることができるようになっている。

#### ④ アカウント情報と紐づいた編集履歴を残すことができる

MediaWikiでは、すべてのページについて、どのアカウントがどのような編集をしたか、詳細な変更履歴が保存される。これによって、誰もが編集できる一般ページにおい

---

<sup>9</sup> <https://www.mediawiki.org/wiki/MediaWiki/ja>

て、必要に応じて、編集が行われる前の状態にページを戻すことができる。

⑤ 「カテゴリ」機能がある

MediaWiki には、作成したページを特定の「カテゴリ」の下に位置付けてグルーピングする機能がある。この機能を LibrarianMap で使用すれば、バラバラに作成された個人のページを、所属機関以外の属性（担当業務、持っているスキル、経験等）のもとでつなげることができると考えた。

⑥ 多くの拡張機能が用意されている

デフォルトの機能はシンプルだが、MediaWiki には世界中の様々な人によって開発されている拡張機能が豊富に存在する。必要に応じてこの拡張機能を活用することで、さらに使いやすいサイトにすることができる。

### 3.3. 公開方法の検討～なぜ「限定的な公開方式」か

LibrarianMap の構想を実現するにあたり最も議論を重ねたのが、公開範囲についてである。事業計画書の段階では、「特に制限を設けず、広くインターネットで公開」すれば、「職員同士のネットワークの強化」「図書館の外側へのアピール」の2つの問題両方に対応できると考えていたが、意見交換の中で「目的によって情報の出し方、見せ方は違う」「公開範囲を限定したほうが登録者は増えるだろう」「LibrarianMap は外部へのアピールとして最適なのか」といった指摘が多数あった。

「これまで具体的な動きが少なかった「図書館の外側へのアピール」という視点を大事にしたい」「公開範囲を限定すれば、あとから広く公開することが難しくなる」といった迷いもあったが、最終的に、「ID・パスワードを用いて公開範囲を国大図協関係者に限定して運用する」形で進めることに決めた。

それは、まずはより多くの登録者を確保し、内部のネットワークを強化することが今年度の事業の最優先事項であると判断したからである。さらに、内部向けであっても、自分の経験やスキルをかえりみて、それを発信する、という作業は、図書館の外側に向けて何かを発信していく上での基礎になると考えた。意見交換や検討の過程で、外部へのアピールという文脈で「図書館員の意識改革から始めなければ」という表現が何度も聞かれたが、LibrarianMap がその意識改革のきっかけになるのではないかという狙いもある。

その上で、「外部」とは何か、ステークホルダーとは誰かをしっかりと考え、切り分けて、それぞれに最適な形で情報をアピールしていくことを今後の課題と考えている。それは LibrarianMap の延長であっても良いし、全く違った形が考えられるかもしれない。しかし少なくともその際に、LibrarianMap で構築される「内部」のネットワークが有用となるはずである。

## 4. LibrarianMap の実装面の工夫

### 4.1. 登録を促進するための工夫

#### 4.1.1. マイページ

マイページへの自分の情報の登録を簡単にするため、入力フォームを用意した。

フォームの主な項目は以下のとおりであるが、これらの項目以外にも、登録者が自由に項目立てをしながら記述していけるような形をとっている。

- ・ 氏名、所属、勤務地、連絡先等の基本情報
- ・ 経験、知識、スキル
- ・ 興味・関心
- ・ これまでの経歴
- ・ 関わった事業、組織
- ・ 著作
- ・ 仕事以外の情報（趣味・特技…）



図2 マイページのサンプル

The screenshot shows the registration form for the user profile. It includes fields for '氏名よみ' (Name), 'プロフィール画像' (Profile picture), '所属機関名' (Institution name), '所属部署名' (Department name), '所属係名' (Department name), '職名' (Job title), and '勤務地' (Workplace). Each field has a '必須' (Required) label and a dropdown menu. The 'プロフィール画像' field has a 'ファイルアップロード' button and instructions: '画像をアップロードし、画像ファイル名を拡張子を含めて入力 (例: 'kokudai.jpg')'. The '所属機関名' field has instructions: 'プルダウンに該当するものが出てこない場合は、別途所属機関に関するページを作成してください。'. The '所属部署名' field has instructions: '所属の内の、機関名と係名を除く部分を入力 (例: '附属図書館管理課' | '研究推進部情報図書館課')'. The '所属係名' field has instructions: '係、チーム、担当名を入力'. The '職名' field has instructions: '例: 「部長」「課長」「専門員」「係長」「主任」「係員」...'. The '勤務地' field has instructions: '現在勤務している場所 (キャンパス) を、機関名から入力 (例: 東京大学本郷キャンパス)'. The '必須' label is in red.

図3 マイページの入力フォーム

また、Wiki 記法によるソースコードをコピーすることによっても簡単にマイページが作成できるように、サンプル利用者のページも作成した。

#### 4.1.2. マイページ登録のヘルプページ作成

登録用のフォーム、ソースコードコピー用のサンプルページだけでなく、一から登録をするときに参照できるようなヘルプページも作成した。ヘルプページは画像も使い、アカウン

トの作成から実際の入力まで、順序を追って登録できるような内容にした。

### 4.1.3. 規約類の整備

LibrarianMap の公開にあたり、「利用規約」と「プライバシーポリシー」の2つ（別紙 5-1,5-2 として添付）を策定した。これらは、企画・運営メンバーが原案を作成して、東京工業大学の顧問弁護士に確認を依頼し、指摘の内容に基づいた修正を経て完成した。

## 4.2. 「職員同士のネットワーク」を強化するための工夫

図書館員の情報を単に集約するだけでなく、LibrarianMap に登録した図書館員同士が新しい出会いをして、結びつきを強めていけるよう、いくつかの機能を実装した。

### 4.2.1. カテゴリ機能

MediaWiki の基本機能として、全ての登録者は、所属や担当業務、スキルや興味関心等を表すキーワードを「カテゴリ」としてタグのように設定することができる。また、新たなカテゴリを自由に作成することもできる。

登録者がマイページにカテゴリを設定することで、同じカテゴリを持つ登録者がグルーピングされて一覧できるため、同じ業務を担当している人、同じようなスキルや興味関心を持つ人を検索する上で有用である。それぞれのカテゴリに詳しい記述を追加することも可能であるため、カテゴリページを一種のコミュニティページとして利用することもできる。

また、現所属・旧所属の大学・機関をカテゴリ登録すると、大学・機関のカテゴリページの職員一覧に名前が表示され、その大学・機関に所属している図書館員、もしくはかつて所属していた図書館員の名前が分かるようになっている。

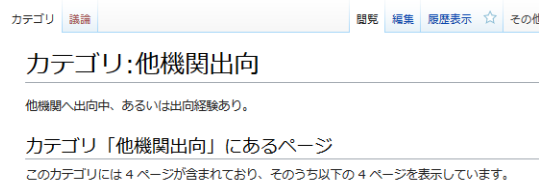


図4 カテゴリページの例



図5 所属機関のカテゴリの例

#### 【作成されているカテゴリの例】

- ・ MediaWiki
- ・ NACSIS-CAT/ILL
- ・ イベント企画
- ・ デジタルアーカイブ
- ・ 事務局経験あり
- ・ 他機関出向
- ・ 図書館広報
- ・ 図書館謎解きゲーム
- ・ 学生協働
- ・ 機関リポジトリ
- ・ 民間企業勤務経験あり
- ・ 移転作業
- ・ 非常勤経験あり

#### 4.2.2. 地図表示

トップページには、OpenStreetMap<sup>10</sup>を利用した地図を掲載しており、地図上には、登録者が現在の勤務地として登録した所属機関（キャンパス）の位置がピンで示されている。そのピンをクリックすると、その場所を勤務地として登録している図書館員の名前が一覧で表示され、図書館員の存在を地図上で視覚化することができる。

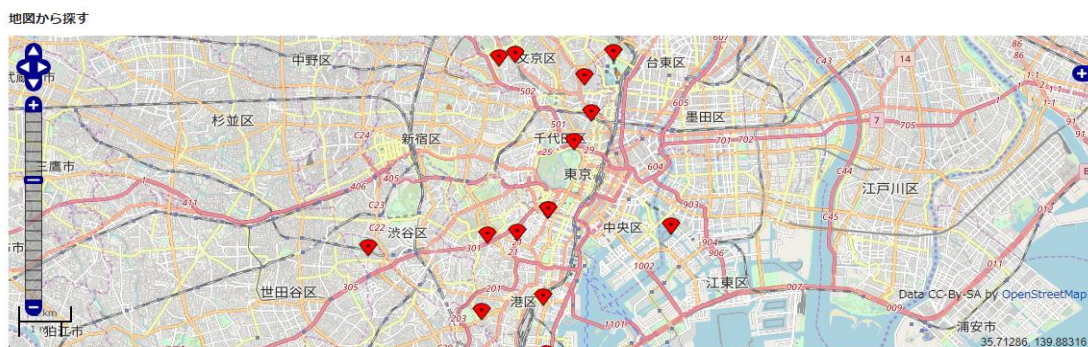


図6 実際の地図

#### 4.2.3. 多様な検索手段

カテゴリや地図表示からだけでなく、以下のような切り口からも他の図書館員の情報を検索できるよう、機能や表示の整備を行った。

- ・ フリーワード検索
- ・ 所属機関による検索
- ・ 担当業務による検索

また、トップページに「現在の登録者数」をリアルタイムで表示させ、そこから登録者の基本情報が一覧できるページへリンクを貼った。多様な検索手段や一覧性を確保しておくことで、情報との出会いの幅が広がると考えられる。

<sup>10</sup> <https://openstreetmap.jp/>

## 5. 事業の成果と展望

### 5.1. 今年度の成果

これまでに述べてきたとおり、平成 30 年度の地区助成事業では LibrarianMap という成果物を作り上げることができた。LibrarianMap を構築したことによる具体的な成果としては、以下のようなことが挙げられる。

- ・ 新人から管理職まで、幅広いキャリアの図書館員が登録している。67 名という登録者数も、事業計画書で年度内の目標としていた「50 名」という目標を大幅に上回り、十分な成果を得られたと考えている。
- ・ 各職員の新たな一面を知った、こういう経験もされているとは意外だった、というような感想がすでに聞かれ、情報の有用性が感じられている。
- ・ 個人ページ以外にも各機関のページ、カテゴリページ等数多くのページを作成することで、業務内容や所属機関等、さまざまな角度から個人を探ることができるようになった。
- ・ 管理者（企画・運営メンバー）だけでなく各登録者も、オリジナルの項目を立てたり、外部にある既存の個人ページへのリンクを貼ったり、ページ/カテゴリを新規作成したりと、すでに述べたような MediaWiki 及び LibrarianMap の特性を活用している。

これと同時に、LibrarianMap という企画の実現を通して、企画・運営メンバー一人一人が様々な経験をしたという点でも、平成 30 年度の地区助成事業は大きな意義があったと考える<sup>11</sup>。以下にその概要をまとめ、各メンバーによる個別の振り返りは「6.1 年間の振り返って（企画・運営メンバーから）」に掲載する。

#### (1) 新企画の立ち上げ

平成 30 年度地区助成事業で何をするかは、キックオフミーティングでのコンペにより決定した。企画決定後は、事業計画書の文案をメンバー各々が作成した。

自分の考えた企画をプレゼンテーションすること、様々な企画案が出る中でそれぞれの根底にある共通の目的を見つけ出すこと、全員が前向きに取り組めるよう、それぞれの企画・アイデアの要素を取り入れて 1 つの企画にまとめ上げていくこと、決定した企画を計画書という書式にまとめること等を密に経験することができた。

---

<sup>11</sup> 平成 30 年度東京地区地区助成事業の 1 年間の活動経緯については、別紙 6「平成 30 年度の活動記録」を参照



## (2) 東京地区会員館全館への訪問と企画説明

東京地区の全会員館を訪問し、LibrarianMap 企画説明と各会員館の職員との意見交換を行った。これは、これまでの地区助成事業では例のなかったことだが、他大学の方にアポイントメントを取ることや、企画に携わっていない人に伝わるように企画を説明することは貴重な体験となった。企画説明にあたっては、LibrarianMap 構築の方法や機能の検討だけでなく、どうすれば LibrarianMap という企画に理解を得て、使いたいと思ってもらえるかを意識した。

この訪問で、企画・運営メンバーの当初の思いの一つであった「どんな職員が大学図書館で働いているかを知りたい」ということを叶えることができた。また、企画に対する反応を直に見ることができ、より詳細な検討に進むことができた。

## (3) 協働

地区助成事業を通して、様々な協働を体験した。

### ① 企画・運営メンバー同士の協働

企画・運営メンバーは、それぞれが異なるバックグラウンドで得た知識や経験を活かしながら、互いに異なる環境の中でサポートし合って本事業を進めることができた。また、その過程で、互いの業務や所属機関について理解を深めるとともに、業務の進め方や重点の置き方、将来の展望等についてあらためて考える機会を得た。

### ② 企画・運営メンバー以外との協働

会員館への訪問や、その後のやり取りを経て、企画・運営メンバー以外の方からも協力を得ることができた。東京地区全体に呼び掛けるためのメールや文書の校正を引き受けてくれた職員や、LibrarianMap のロゴマークを作ってくれた職員がいた。

### ③ 国立大学図書館協会外との協働

MediaWiki の技術指導役として、物質・材料研究機構の田辺浩介氏にご協力をいただいた。技術的な指導を仰いただけでなく、大学図書館員以外の視点から、企画にアドバイスをもらった。また、先述のオープンディスカッションで国大図協外からいただいた意見も、企画の検討の材料となるだけでなく、図書館員としての自分たちのあり方を相対化する契機となった。

## (4) コストを意識した企画運営・実施

対面での打ち合わせにかかる時間を削減するため、意見等のやり取りには Slack、ファイルのやり取りや保管には Google Drive と、無料のサービスを活用した。また、LibrarianMap を構築するためにフリーソフトの MediaWiki を使用し、サーバもレンタルで契約して、低コストでのプロトタイプ版システムの構築を達成した。予算の範囲内

で最大限の効果を発揮できるように、コスト意識を持って取り組んだことが、今後に生かせるよい経験となった。

#### (5) Web サイトの開設・メンテナンス

MediaWiki のオンラインマニュアルにより各自が基本知識を勉強するとともに、田辺氏の技術指導を受け、サーバへの MediaWiki の導入、SSL の導入やアクセス制限をはじめとするサーバの各種設定の調整、拡張機能のインストール、サイトデザインの編集や拡張機能を活用したサービスの実装等に、役割分担をして取り組んだ。

## 5.2. 今後の展望

現状の LibrarianMap では、個々の図書館員が持つ知識や技能等の可視化や、新たな人的ネットワークの構築の促進、新たなコラボレーションの実現への貢献、人材データベースとしての機能の発揮等が可能である。しかし、現在の LibrarianMap では実現できず、LibrarianMap を何らかの形で発展させ、達成したいことが大きく 2 点ある。

まず 1 点目は、第 2 章の問題意識に即して、「職員同士のネットワークの強化」を達成するための「コミュニケーション機能の充実」である。会員館への企画説明やオープンディスカッションの際には、BBS や SNS のようなコミュニケーション機能の充実を求める声も聞かれた。これらは既存のサービスで代替可能であるとも考えられるが、国立大学図書館という枠組みで職員同士の自由なコミュニケーションの場を提供するサービスは現状では少ない。そのため、チャットツール、独自のソーシャルサービスの提供は十分に需要が見込まれるものと思われる。

また、2 点目は、「図書館の外に向けたさらなる大学図書館員のアピール」である。制限を設けず、広くインターネットで公開するかどうかは今年度の LibrarianMap での最大の焦点となったが、今回、LibrarianMap は ID・パスワードが要求される限定的な公開方式を選択した。しかし、大学内における図書館の存在意義が問われている昨今の状況下では、図書館員自身が積極的にその能力と有用性を大学の内外に向かって広くアピールを行い、大学図書館及び大学図書館員のプレゼンスを向上させていかなければならないと感じている。今後、オープンアクセス化が一層進んでいくことが予想され、大学図書館員はオープンアクセスを推進する役割を担う。そうした状況で、大学図書館員自身が、今よりもオープンな環境に身を置き、大学内のみならず社会に対して進んでアクセスしていけるような、また逆に、大学内や社会からもアクセスしてもらえるような将来を我々は目指していきたい。LibrarianMap が作る、機関を越えた内部のネットワークがそのための重要な基盤となり、LibrarianMap に自分の情報を載せるという行動が、外へ向けて発信していくという意識を持つきっかけにもなることを期待している。

以上 2 点を、今後、LibrarianMap が目指していくべき方向性として考えている。

## 6. 1年を振り返って（企画・運営メンバーから）

（安達：東京大学）地区助成事業スタート時には全く想定していなかった企画となったが、自分のいる図書館・自分のいる大学の外にも仲間が欲しいと思ってメンバーに立候補したので、自分の希望にあった企画を進めることができ、とても嬉しく思っている。他大学の方との協働以上の経験ができ、また、もう1つの大きな事業参加の目的であった茂出木課長のご指導を受けることも達成され、期待をはるかに上回る1年となった。

素晴らしい1年を送れたのは、企画・運営メンバーと、茂出木課長を始めとした、様々に関わりを持ってくださった職場の内外の方々のおかげだと感じている。本当にありがとうございました。

個人的にはとても満足の行く1年となったが、やはり LibrarianMap の今後について、このままにしておいてはいけないと感じている。皆様の役に立つ、必要と思ってもらえるあり方、サービスを考えていきたい。

（若山：東京藝術大学） LibrarianMap の公開方針をどうするかということが、今年度企画を具体化する中で最も大きな論点になった。様々なご意見を伺いメンバーとも議論する中で自分の考えは揺れ動き、どの道を選んでも正解かもしれないし、どの道を選んでも不正解かもしれないという感覚にも度々なった。揺れ動きながら企画を検討し説明し実装していく中で、改めて当初の思いに立ち返ることや、大きな理念は捨てないまま当面焦点を絞るということ、逆にとりあえずやってみて走りながら考えるということ、そういった様々な押し引きをしながら、結論をしぼり出していくということを学んだように思う。

一から学んだ MediaWiki の構築作業や地道な企画説明も含め、苦しくも充実した1年になった。

メンバーや茂出木課長をはじめ、関わってくださった方々、ご協力くださった方々、（ひとまず）ありがとうございました。

（森澤：東京工業大学）私にとってこの一年は、東工大図書館での本務と地区助成事業、そして家事育児をいかに両立するかに尽きた。4月に図書館に異動となってまもなく、本務への理解も充分及ばない中ではあったが、これまでの研修のイメージで楽観的に考え、本事業に参画した。メンバーは私より皆若く、先輩らしくあるべきというプレッシャーや、本事業を通して人前で説明する機会の度、この業界をよく知らないのに偉そうに！と思われなかと、不安な気持ちも強かった。そして不安は不思議と伝わるのか、今日に限ってというタイミングで体調を崩す息子…。とにかく慌ただしく過ぎた1年で、何もかも中途半端に終わってしまった感覚があり、後悔も多い。しかしながら、そういったエフォート管理の必要性和難しさに気付くことができたこと、広く多くの方々と出会えたこと、諸先輩方からご指導いただいたこと、そして、何より共に悩み苦しみ支え合えた仲間と出会うことができた本事業

業に感謝したい。

(星野：東京海洋大学) 入職 1 年目にして各機関への訪問やオープンディスカッションを通して多くの方々のお話を伺うことができたのは非常に貴重な経験でした。特に、LibrarianMap の公開方針については様々なご意見を頂戴しました。それらを事業に反映させていく過程で困難もありましたが、多くの人に関わる仕事を進めていくための方法を多少なりとも学ぶことができたと思います。

また、LibrarianMap の構築にあたってレンタルサーバとの契約に始まり独自ドメインの取得や MediaWiki のインストールと各種設定、サーバの管理等、技術面でも学ぶことが多かったです。どれも初歩的な内容ではありますが、今後の業務に役立てられる大変有意義なものでした。今回学んだことを活かして、利用者に喜んでもらえるような新しいサービスを作っていけたら、と考えております。

(石橋：お茶の水女子大学) 毎日のように検討と試行錯誤を繰り返した日々は想像以上に大変だったが、技術的な知識のほか、大学図書館界の動向や各会員館の取り組みを知り、同世代の職員の活躍とスキルの高さに刺激を受け、意見や指摘をもらう度に自分の視野の狭さと知識不足に気づき…と、想像以上に楽しく、贅沢で、収穫の多い研修となった。個人的には、各会員館への企画説明、“〇〇書”の作成、会員館へのメール送付等すべての過程で、「端的に・わかりやすく・伝わるように説明する」ことの難しさとひらすら向き合った 1 年だったように感じる。

茂出木課長の細やかなご指導を受け、メンバーに何度も助けられ、たくさんの方と出会う中で得られた知識や経験、つながりは今後あらゆる業務に役立つ汎用性の高いものだと思う。事業を進める中で改めて感じた、大学図書館員が持つパワーや魅力を LibrarianMap で体現できるよう、引き続き力を注いでいきたい。

(三村：国立情報学研究所) 他機関の図書館員とやり取りをして Web サービスを構築することは、通常業務で事務局として関わっている作業部会の、委員側の業務に近いと感じた。また、システムの設計や構築等、普段は係長以上が意思決定をするような内容も、主体的に考えて決めることができた。類似の業務に異なる方向から関わったことで、通常業務と地区助成事業の経験を相互に活かすことができたと考えている。また、所内にいると PC の前に座る時間が多いため、他機関に直接伺い、図書館を見学させていただき、お話を伺ったことはとても良い経験になった。LibrarianMap については、実用性、実現性、運用の継続等の面で厳しいご意見もいただいたが、大学図書館員が本当は何を必要としているのか、引き続き考えていきたい。

【別紙 1】

平成30年度東京地区地区助成事業実施関係者一覧

〈企画・運営メンバー〉

- 安達 修介 ( 東京大学 )  
若山 勇人 ( 東京藝術大学 )  
森澤 里名 ( 東京工業大学 )  
星野 遼 ( 東京海洋大学 )  
石橋 優花 ( お茶の水女子大学 )  
三村 千明 ( 国立情報学研究所 )

〈世話役〉

- 茂出木 理子 ( 東京工業大学 )

〈技術指導〉

- 田辺 浩介 ( 物質・材料研究機構 )

〈協力〉

- 瀬川 結美 ( 東京学芸大学 ) ...登録依頼関係文書の校正  
南雲 修司 ( 一橋大学 ) ...LibrarianMapロゴマーク作成

# LibrarianMap (プロトタイプ版)

## 登録のご案内



## LibrarianMapとは？

LibrarianMapは、国大図協会員館の方々ご自身にデータを登録していただき、各自の経験・知識・スキルを「見える化」するシステムです。このシステムによって、所属を超えたネットワークを広げる足掛かりを作るとともに、国大図協東京地区の持つ人的リソースを最大限に活用することを企図しています。

## LibrarianMapでできること

### ★自分について登録し、発信する

自由かつ簡単に、自分の情報を掲載したマイページを作成できます。

自分の職歴が集約されたアーカイブとしても活用可能です。

- ・氏名、所属、勤務地、連絡先等の基本情報
- ・経験、知識、スキル、経歴、関わった事業・組織
- ・仕事以外の情報（趣味・特技…） など…

### ★多様な検索方法で人を見つけ、知る

他機関で働く職員のデータベースとして、色々な切り口から検索ができます。連絡先が掲載されていれば、必要に応じて連絡を取ることも可能です。

- ・フリーワード検索
- ・所属機関からの検索
- ・地図検索
- ・業務やスキルからの検索（カテゴリ機能による検索）

### ★カテゴリ機能を使ってつながりを発見する

所属やスキル等を表すキーワードをマイページにタグのように付与することで、同じタグを付与した人がグルーピングされます。

## 対象範囲

IDとパスワードで認証する形式を取っています。

### ★閲覧可能者（アクセスID・パスワード共有範囲）

- ・国大図協東京地区会員館、国大図協他地区等の登録者
- ・本事業に関心を持ってくださっている外部有識者

### ★データ登録者（編集アカウント取得・マイページ作成が可能の方）

- ・国大図協東京地区関係者
- ・国大図協他地区の職員等で登録にご協力いただける方

※ID・パスワードは1年に1度の更新を予定しています。

※ID・パスワードによる閲覧制限は、関係者以外が閲覧しにくくするためのもので、関係者以外の閲覧を完全にブロックできるものではありません。第三者に知られて困るような情報は書き込まないなど、データを登録される際や閲覧される際には、各自でご注意ください。

## LibrarianMap (プロトタイプ版)

URL: <https://ex.librarianmap.org>

アクセスID: ochanomizu2018

パスワード: ArtsFestival



ご登録はLibrarianMap内の案内ページに従って行ってください。

お問い合わせ先: [admin@librarianmap.org](mailto:admin@librarianmap.org)

**LibrarianMapを通じて他大学・機関の方や取り組みに出会い、新たなつながりを作りませんか？皆様の登録をお待ちしています。**

## 「LibrarianMap」アンケート

LibrarianMapへの登録を希望しない理由について、差し支えない範囲でお答えください。

今後の運用の参考にさせていただくほか、個人が特定できないような形で、報告書やLibrarianMap上に掲載させていただく場合がございます。

【問い合わせ先】

国立大学図書館協会 東京地区

平成30年度 地区助成事業 企画運営メンバー

[admin@librarianmap.org](mailto:admin@librarianmap.org)

\*必須

1. 登録を行わない理由として、当てはまるものを全てお答えください（複数回答可）。\*

当てはまるものをすべて選択してください。

- 自分の情報を他の職員に見られたくないから
- LibrarianMapのセキュリティに不安があるから
- 再来年度以降の継続的な運用に疑問があるから
- 業務等で実際に役立つものなのか疑問だから
- 他機関の職員と繋がりを持つ必要性を感じていないから
- 職員同士のネットワークを強化する手段としてLibrarianMapはふさわしくないから
- FacebookなどのSNSやresearchmap等、既存のツールがあれば十分だから
- 登録やページ作成が面倒だから
- その他: \_\_\_\_\_

2. ご自身の職務歴（大学職員として）を教えてください。\*

1つだけマークしてください。

- 1～3年目
- 4～6年目
- 7～12年目
- 13～19年目
- 21年目～

3. その他、ご意見等ございましたらお知らせください。

---

---

---

---

---

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

## H30 国立大学図書館協会地区助成事業(東京地区協会) LibrarianMap(プロトタイプ版)

## &lt;個別訪問とオープンディスカッションでいただいた意見とその対応について&gt;

① 公開範囲について

- 個人情報をご一般公開したくない。悪用されないか不安。
- 登録者が多くなると使い物にならない。
- 「この人とつながりたい」と思わせるような情報(趣味や興味関心など)ほど、外部には公開したくない。

→

- ・まずはより多くの登録者の確保を目指し、ID・パスワードによる内部公開とする。
- ・データ登録者(編集アカウント取得・マイページ作成が可能の方)は国大図協東京地区関係者または国大図協他地区の職員等で登録にご協力いただける方を対象とする。
- ・ID・パスワードの共有範囲は、国大図協東京地区会員館および国大図協他地区の登録者、および本事業に関心を持ってくださっている外部有識者(オープンディスカッション参加者等)とする。

- 専門図書館や学校図書館も参加すればもっと面白くなるのではないか。
- 図書館の外に、図書館の中の情報を押し出していく、という発想は今までできなかったことであり画期的。図書館職員の意識改革のきっかけになるのではないか。

→

- ・今年度においては、国立大学以外の図書館(公私立大学、専門図書館、公共図書館等)までは範囲を広げない。
- ・図書館員の専門性を外部にアピールすることに対する必要性や期待の声も多く寄せられたが、同時にその手段として LibrarianMap が最適なのかという指摘もあったため、今後の課題として引き続き検討する。

② セキュリティについて

- 個人情報が外部に漏れないか不安。

→

ID・パスワードは定期的(年1回程度)に更新する。ただしID・パスワードによる閲覧制限は、関係者以外が閲覧しにくくするためのもので、関係者以外の閲覧を完全にブロックできるものではないため、第三者に流れて困るような情報は書き込まないなど、データ登録時や閲覧時には、各自で注意する。

- アカウント登録者やマイページ作成者が本当に本人のものなのか分からない。

→

- ・なりすましの防止のため、アカウント作成時のメールアドレスと本名入力を必須化した(管理者以外に見られることはない)。
- ・各自のマイページについて、本人にしか登録・編集できないよう制限した。

③ PDF版 LibrarianMap の作成について

- 網羅性・最新性を担保するための更新作業の人的・時間的な負担が大きい。
- 以前名刺交換をした人の現在の所属や連絡先が分かり、アドレス帳代わりに良い。

→

Wiki版を内部公開とすることで、ある程度網羅性を高められるものと考え、PDF版の作成はしない。その代わりに、Wiki版にメールアドレスと電話番号の項目を設けている(入力任意)。



#### ④ Wiki 版 LibrarianMap の内容や構成について

- 登録内容が自由すぎるのは良くないから、テンプレートを用意すべき。
- 業務に関する項目とプライベートに関する項目のページを別にするなど、図書館の専門性をアピールするためには、項目や構成に工夫が必要。

→ マイページ作成のためのサンプルページと登録フォームを用意した。登録フォームについては、各自のスキル・経験がより見やすくなるよう、デフォルトの項目順を、業務関連の項目が上部になるよう変更した。

- カテゴリのソースを作ったり、階層構造などを細やかにしたりするなど、検索がしやすいと嬉しい。
- カテゴリなども運営側である程度統制する必要がある。

→ ・所属機関や業務内容から探せるようにソースを作成した。  
・想定されるカテゴリを事前に 70 個ほど作成し、ある程度統制がとれるようにした（該当するものがない場合には、自分で新たにカテゴリを作成することも可能）。

#### ⑤ その他、具体的な要望を受けて対応したこと

- それぞれのページがいつ更新されているのか知りたい。

→ 各マイページの「最終更新日」が上部に自動表示されるよう、レイアウトを整えた。

- LibrarianMap の規模感（機関や登録者数など）が一目で分かると良い。

→ トップページに「現在の登録者数」としてマイページ作成者数を自動表示するようにした。同時に、所属機関毎の登録者も一覧できるようにした。

- FAQ のページがあると良い。

→ 作成済み（随時追記予定）。

<https://ex.librarianmap.org/wiki/FAQ>

- 個別訪問の際に他大学で出た意見や、オープンディスカッションの内容が知りたい。

→ LibrarianMap 内の以下のページにさらに詳しくまとめている。

<https://ex.librarianmap.org/wiki/Opinions2018>

#### 【問い合わせ】

E-mail : [admin@librarianmap.org](mailto:admin@librarianmap.org)

運営・企画メンバー：安達(東京大学),若山(東京藝術大学),森澤(東京工業大学),

星野(東京海洋大学),石橋(お茶の水女子大学),三村(国立情報学研究所)

/ 世話役:茂出木(東京工業大学)

## 【別紙3】

平成 30 年度国立大学図書館協会地区助成事業(東京地区協会)『国立大学図書館協会東京地区 LibrarianMap  
(プロトタイプ版)の構築』に向けたオープンディスカッションの開催について

### ■ 趣旨

今年度の「国立大学図書館協会(以下、「国大図協」)地区助成事業 東京地区協会事業」では、『国立大学図書館協会東京地区 LibrarianMap(プロトタイプ版)(以下、「LM」)の構築』をテーマとしています。LMは、国大図協東京地区が持っている人的リソースを最大限に活用するため、図書館職員各自の経験、知識、スキル、興味関心ごとなどを「見える化」していこうとするものです。この構築にあたり、現在、MediaWikiによりテストデータを登録中のβ版を実際にご覧いただきながら、掲載内容、見せ方等に対するアイデアや新たなご提案、また問題点や課題について、国大図協東京地区の加盟館のメンバーに加え、広く外部からのご意見をいただくため、下記のとおりオープンディスカッションを開催します。ご参加をお待ちしています。

### ■ 開催概要

・ 日時:平成 30 年 10 月 23 日(火)15:00~16:30(終了後、東工大図書館の見学を予定しています)

・ 会場:東京工業大学大岡山キャンパス 東工大蔵前会館 3 階 手島精一記念会議室

(東京都目黒区大岡山 2-12-1) <http://www.somuka.titech.ac.jp/ttf/access/index.html>

・ 内容:

14:30~15:00 受付

15:00~15:05 事業趣旨の説明

15:05~15:15 LibrarianMap(β版)の説明

15:15~16:25 フリーディスカッション

16:25~16:30 まとめ、閉会

※16:40~17:10 東京工業大学図書館見学(希望者のみ)

■参加者: 国立大学図書館協会東京地区の加盟館の職員、その他、本事業に関心を持たれた方

■参加費: 無料

■定員: 40 名(要事前申込、先着順)

■申し込み方法:下記より、お申し込みください。(締め切り:10月19日(金))

<https://goo.gl/KkMBec>

### 【本件連絡先】

E-mail : kokudaitokyomaruken2018@gmail.com

企画メンバー : 安達(東大)、若山(東京藝大)、森澤(東工大)、星野(海洋大)、  
石橋(お茶大)、三村(NII) / 世話役 : 茂出木(東工大)

## 東京地区会員館への企画説明とオープンディスカッションで いただいたご意見（まとめ）

LibrarianMapの方向性や具体的な機能を検討するにあたり、①東京地区加盟館への個別訪問説明、意見交換（2018年7-11月）②外部有識者の方々も交えたオープンディスカッション（2018年10月23日）を通して、国大図協東京地区内外の様々な方からご意見をいただいた。主な内容について以下にまとめる。

### 1.LibrarianMapの意義について

#### 1-1.図書館内部向けのツールとしての意義

##### 【人を探せる】

- ・過去に研修を受けた人や、ある業務に長く携わってきた人が、異動したあとに、いまどこにいるのかが分かるのはとても助かる。
- ・アドレス帳代わりになる。
- ・前の担当者や研修経験者を探すために使うのが一番現実的な使い方もしれない。
- ・頻繁に変わりがちなコンタクトインフォが一箇所に固定されて、更新できるのが良い。
- ・（SPARC/JAPANで講師を探すにあたり）いつも同じ人に依頼しがちなので、LMで検索できて探せるとよい。今欲しい。
- ・非常勤職員も載せられると、人材バンク的な使いかたができそう。

##### 【人となりがわかる】

- ・「あの人は誰？」を解消できるのは大きい。
- ・名刺だけでない情報が分かるのは良い。
- ・通常業務ではあまり使わないかもしれないが、名刺交換した人のことを調べたり、研修の講師のことを事前に調べたり、外に出る時に使いそう。
- ・人事交流の時に便利。前の職場での仕事内容や、どんな人なのかが事前に分かる。

##### 【専門性や経験を共有できる】

- ・他大学でもいいから、こんなスキルや経験のある人の話を聞きたいという要望は、図書館関係者で話していると多くあがる（少人数図書館ではなおさら）。
- ・各職員の専門性・経験が、実務担当者に共有されていないのはもったいないと思っていたので、Librarian Mapの意義は大きい。
- ・少ない人数で業務をこなしている都合上、自分たちだけではやりたくてもできない部分がある。その時にこういったツールがあれば、他大学の様子が知れたり、協力できたりするかもしれない。
- ・業務の心構えやノウハウについて、みんなで書き足していくような利用法であればWikiの強みを活かせる。
- ・その時代の流行りのもの（今ならオープンアクセス）をしている人が目立つが、長いこと目録や保存・修復をしている人などは目立たず、もったいない。専門大学などで孤軍奮闘している人にも光を当てられるとよい。
- ・タグがたくさんつくタイプのスターと、1つがとことん深いタイプのスターが両方わかるとよい。それが将来のキャリアプランの目標・参考になる。

#### 1-2.図書館外部向けのツールとしての意義

##### 【図書館界・図書館員が外へ目を向けるきっかけになる】

- ・図書館の外に、図書館の中の情報を押し出していく、という発想は画期的。
- ・いままでできなかった図書館職員の意識改革のきっかけになるのではないか。

【外部へのアピールとして有用である】

- ・これから大学図書館で働きたいと考えている人が、就職後のイメージを持つツールとしてよいのではないか。
- ・LMが一般向けイベント広報の場になる可能性を感じる。

### 1-3.登録者自身にとっての意義

【自分の職歴の記憶・記録になる】

- ・研修歴は自分自身の記憶にも役立つ。
- ・ちょっとした仕事（ニュースレター執筆など）を表に出せたらいい。

【大学図書館員としての業績評価につながるかもしれない】

- ・人事評価に載らない業績が書けそう。個人でなく組織としてこういうプラットフォームがあると、書きやすく、人事とかにも追加資料として見てもらえる。
- ・LMは図書館職員の研究業績を公開したり評価されたりする土台になるのではないか。

### 1.4.LibrarianMapへの様々な問い・懸念

【既存のサービスではなぜいけないのか？】

- ・Facebookにすでに登録している図書館員はたくさんいる。コミュニティができていく。これではダメなのか？
- ・図書館員しかアクセスできないSNSのグループを作るのもありなのでは？なぜSNSではダメなのか？
- ・Research Mapに登録している図書館員は（仕事上での）経験豊富な方ばかり。自分には載せられないけど...という人にはLibrarianMapがあると良いのではないか。

【本当に有用な情報が集まるのか？】

- ・「私は〇〇が得意です」とアピールしてくれる人は、多くないのではないか。
- ・Research Mapは自分のことを見つけてほしい研究者たちだからうまくいっているが、図書館職員はサポートする側、裏方の意識が強いから、見つけてほしい・アピールしたいとは思っていないかも。そういった人たちにどう協力してもらうのか。
- ・他薦式にするのはどうか。強制力が働かないと誰も書いてくれないのでは。逆に推薦したい人はたくさんいる。
- ・「書いてもらう」という意識ではなく、「書かせる」という方向はどうか。研修受講の申し込みはLibrarianMapへの書き込みをもってする、など。
- ・LibrarianMapは組織本位というよりは個人本位の印象が強かった。参加館の職員個々人がどれだけ協力してくれるかが問題になってくる。
- ・「LMにしかない情報」はあるのか？

【LibrarianMapは活用されるのか？】

- ・事務系の職員がLibrarianMapで得た情報をどう活用していくか、ということになると、パッと思いつかない。（事務系の図書館職員より）
- ・LibrarianMapをどう活用していくか具体例が思いつかない。勉強会のメンバーを探すくらいか。
- ・ツールを活用するのは人である。名刺を活用できないような人がLMを活用できるのだろうか。
- ・このページを見て、知らない人に、すぐに相手に連絡をとれるかということ、実際は遠慮してしまう気がする。相手の業務の都合上難しい場合もあると思う。いつでも連絡していいのか、そうではないのかなどを示すものがあるといいと思う。
- ・一般の人はわざわざLibrarianMapに情報を取りに来ようと思わないのでは？

### 【LibrarianMapで図書館員のつながりを作ることが最適なのか？】

- ・個人的には、大学図書館の集まり内で図書館員を探してどうする、という気がする。
- ・多くの職員は勤務歴が長くなるとある程度の人脈が形成されるため、LibrarianMapのようなものの必要性を感じないかもしれない。
- ・職員個人を対象にするとハードルが高いため、組織レベルから情報をまとめていった方がいいのではないか。各機関の組織構成と人数、業務内容をまとめたものがあるだけでも十分に有益。組織→個人という段階を踏む方がハードルが低い。

### 【外部へのアピールとして、LibrarianMapという手段が最適なのか？】

- ・何を外部に公開して、何を内部向けにするかが大事。
- ・ステークホルダーとは誰を指すのか？誰にアピールしたいのか？

### 【利用者にとってのメリットが弱いのではないのか？】

- ・LibrarianMapを使うメリットと、それをアピールする方法を要検討。
- ・特に登録する人にとってのメリットが弱い。
- ・自機関に還元されるものがあるかどうかが重要。
- ・繋がり不足を強く感じている職員の多くは若手だと思っているので、若手に限定したサービスにするのも良いかもしれない。

### 【逆効果となる可能性もあるのでは？】

- ・小さな館だと、LibrarianMapでのつながりで来た質問にこたえることに業務の時間を割くのは難しいかもしれない。館外での業務について、館によっては明確に分けないといけない場合もある。
- ・同じカテゴリに属する人がみんな消極的で、自分しか登録しなかったら、質問とか全部自分に来てしまうのではないのか、という不安がある。
- ・利害関係者との問題は生じないか。（対 利用者、対 業者）
- ・MediaWikiの情報で、例えば人事にそのまま見せてアピールができるとも考えにくい。論文発表など館外活動が豊富であると、本業に専念していないと評価されてしまう場合もある。
- ・職場によっては論文業績等が人事評価でマイナスに働く場合もある。大学図書館職員は、事務職員として通常ルーティン業務をこなして大学に貢献することと、図書館員として業務に必要な勉強や研究を自助努力しながら、図書館サービスや業務を推進することとが求められていると思うが、そのことが評価されていない。

## 2.LibrarianMapの方針について

### 2.1.公開範囲関連

#### 【まずは軸を定めるべき】

- ・内部向けと外部向けには見せる情報はイコールではない。どちらもしようとするには、欲張りすぎ。（多数）
- ・そもそも①外部公開・外向けのアピールに重点を置くのか、②内部公開・業界内でのつながりに重点を置くのか、企画メンバー内でぶれない軸をはっきりさせておいた方がいいと思う。いろいろな人の意見を聞くとどっちも取りたくなってしまおうと思うが、そこをはっきりさせておくと自ずとやるべきことも決まるのでは。
- ・「とりあえずのゴールは何か」、「そのために必要な機能は何か」を検討すべき。
- ・「この人とつながりたい」と思わせるような情報（趣味や興味関心など）ほど、外部には公開したくないかもしれない。
- ・「誰が対象か」は重要。どれくらい、どこまで書くかを規定してくると思う。
- ・まずはぶれない軸を決めること。公開・非公開を考えるのはその後。

【図書館関係者の中でも、「国立大学図書館協会東京地区」以外にどこまで広げるのか？】

- ・東京地区だけ、というのは中途半端な印象がある。
- ・国大図協メンバーという範囲も、実は結構公開範囲として広い。名称に気を付けないと、公立・私立大学の図書館の人などに対するハードルが上がってしまうのでは。
- ・私大の図書館職員は外部とのつながりが少ない場合が多く、外に向かってアピールしたい人はいるはず。そういう人たちを取り込んでみると、裾野が広がるのではないか。
- ・専門図書館や学校図書館も参加すればもっと面白くなるのではないか。
- ・東北地区でもコミュニティを作っていると聞いた。「みちのく図書館員連合」  
( <https://mulu.g.hatena.ne.jp/> )
- ・「LibrarianMap」という名前は広い範囲（大学図書館のみならず公共・学校・専門図書館、さらには日本国内のみならず海外の図書館まで）を包摂しているのでいい。このLibrarianMapがある種の模範になり、各々の図書館コミュニティで自然発生的にローカル版が作られるかもしれない。それらをまとめてくれる人も自然に出てきそう。そうした取り組みの総体がLibrarianMapになるとよい。

【一般公開するならセキュリティ面が心配】

- ・連絡先の情報も公開すると、営業電話が増える、一括でメールアドレスを取得してスパムメールを送り付けるなどどういう目的に使われるかわからないのが怖い。
- ・大学の方針として、公開する職員の情報に制限をかけていることも考えられる。所属機関の個人情報公開の方針によって許可されない可能性がある。
- ・自制が効かない若手職員が心配。書いてはいけないことを書いてしまった場合どうするのか。
- ・かつてある大学で実際に、一般公開の個人ページで出した情報によってストーカーまがいのトラブルが発生したことがある。
- ・図書館職員としては、業者に個人情報や内部情報を見られるのが一番のリスクなのではないか。逆に言えば、業者からすればLibrarianMapは金を出してでも運営したいものだと思うはず。
- ・アカウント登録者やマイページ作成者が本当に本人のものなのか分からない。なりすましの防止の工夫はあるか。

【一般公開は図書館員の文化や土壌に馴染まないのでは？】

- ・これまでも図書館員は「専門性を外部にアピールしていきましょう！」と耳にタコができるくらい言われ続けてきた。でも、やらない。それは何故なのか考えてみて欲しい。
- ・中で働いている人の情報をさらすことが有利に働く職業と、そうでない職業がある。図書館は？
- ・業種や大学組織としての「文化」がすでに根付いている。それを変えていく覚悟があるか。
- ・研究者は業績をアピールしないと評価されないのが積極的に論文・著作等の業績を報告しているが、図書館員は職場で業績として評価されるとは限らない。そうした土壌を変えていく必要はないのだろうか。

【一般公開に対する躊躇いは時間や登録状況によって変わるかもしれない】

- ・今はWeb公開に躊躇している人でも、登録者が多くなれば自然と登録するようになるかもしれない。
- ・「どうなったらいいか」「どうなったら安心か」という答えはおそらく誰にもなくて、「ただなんとなく不安」なのではないか。
- ・事業を継続していけば、登録する側の気持ちがだんだん変わってくるのではないかと思う。みんなに分かりやすい説明を続けることが大事。

## 2.2.運用について

### 【登録者を増やすことが第一】

- ・登録者が多くなると使い物にならない。
- ・登録者のすそ野が広がらないと価値が半減する。輝かしい経歴の持ち主ばかりではないということは念頭に置くべき。
- ・(LibrarianMapの効果的な見せ方や) 売り出し方は詳しい人、得意な人に任せておけばよい。まずは情報を蓄積すること。

### 【情報の鮮度を保てるような工夫が必要】

- ・更新が滞る人はどこまで許容するのか。
- ・登録したはいいものの、その後まったく更新されず、古くて有用でない情報が溜まってしまうようなことがあるのではないかな。
- ・身上調書で書くことはLibrarianMapにも書け！くらいの強制力がないと更新されないのではないかな。

### 【運用コスト(人的・経済的)が心配】

- ・PDF版は網羅性・最新性を担保するための、各機関の人的・時間的な負担が大きいように感じる。
- ・多様なキャリアパスへの細やかな対応が必要
- ・LibrarianMapの管理をメンバーがすることについて、コクダイマルケン単年度の事業にも関わらず、2年目に通常業務外の見えない業務が残ってしまう(それが長期的な企画の難しさ)。メンバーの負担や、各機関の課長さんたちはOKなのか?たとえば図書館総合展とかで「LibrarianMapサポーター」みたいな人を集めたらどうか。
- ・LibrarianMapを継続した場合、企画に賛同してくれた人に管理を任せる、みたいなことは難しい。どこかの業務にしないと。結局東大の負担増になる?
- ・サーバーの維持費等の費用はどうするのか。

### 【フィードバックを残しておくことが重要】

- ・登録しなかった人(あるいは途中でやめた人)の意見は残しておいた方がいい。
- ・アンケートを取ってみてはどうか。

### 【MediaWikiを使うことへの賛同】

- ・Wiki版であればある程度は各個人の運用に任せられる。
- ・図書館員が使い慣れているWikiを使うというのは取っつきやすく良い。
- ・カテゴリでグルーピングできるのが良い。

## 3.LMの中身について

### 3.1.個人ページについて

#### 【項目の自由度や見せ方について慎重な検討が必要】

- ・登録内容(項目)が自由すぎる。カテゴリなども運営側である程度統制する必要がある。「『自由すぎてどうすればいいかわからない』という考え方を変えていこう」と登録者に促す方法と、「フォーマットをきちんと作りました」と手順を用意する方法がある。
- ・やわらかい項目の部分は上司に見られたくないから書かないかも。
- ・自分はプライベートな部分と仕事とをはっきり区別しているのに、それが一緒になって載っていたので(β版を見て)違和感を感じた。
- ・表には見えない業績・図書館の専門性を集めるためには項目にももう少し工夫が必要ではないかな。

- ・業務内容から見えないものを見せるべし。（例：デザインがうまい！）
- ・優れた図書館員という素材があっても、LibrarianMapの個人ページの書き方次第ではそれが生かされない可能性もあり、みんな完全に自由に書いてもらう方式では不安。
- ・図書館員が仲間を探したいというニーズを考えると、すごい人（スター）しか登録者がいないと平凡な人間にとっては登録しづらい。いろいろな人が登録ができるような記事作成のテンプレートを用意したらいい。

### 3.2.カテゴリについて

【カテゴリの「使いやすさ」を高めると良い】

- ・カテゴリのシソーラスを作ったり、階層構造などを細やかにしたりするなど、検索がしやすいと嬉しい。
- ・カテゴリをチェックボックスで簡単に選択できると良い。
- ・表記ゆれを防ぐため、運営側である程度統制する必要があるのではないかな。

【カテゴリ機能を積極的に使ってもらえるような仕組みがあると良い】

- ・国大図協のイベントや研修が開催されたら、カテゴリ「〇〇研修」の追加と、参加者のヒモ付けは、必須にできると（研修の一環として、研修時に案内してもらうと）、継続の理由付けになる。
- ・「募集」カテゴリで探している人材を募集できるようにするのはどうか。

### 3.3.LibrarianMapに備わっているとよい機能

- ・関連する人をサジェストする機能
- ・ファイル共有機能が欲しい。お知らせを上げたり、応用が利くExcelマクロのファイルやマニュアル等をアップロードしておき、使いたい人が自由に使えたりできるといい。
- ・個人のページがそれぞれいつ更新されているのか知りたい。
- ・機関のカテゴリページにNACSIS-CAT/ILLの参加館情報を自動で表示できるといい。
- ・コミュニケーションツール、掲示板のようなものとして使えたらうれしい。
- ・イベントページを作れるようにして、「いいね」ボタン等で、他の人が意思や興味を示すことができるような仕組みなどがあるといい。
- ・全体に声をかけた際、該当するカテゴリの人にだけ通知が行くような機能があると嬉しい。
- ・多言語対応であるとよい。
- ・繁忙期が分かるのがおもしろい。「今日は無理です」みたいなその時の状況を表せるようになってたら、登録する側はさらに嬉しいかも。
- ・識別番号みたいなものはつけられないのか？それがあれば、たとえば国大図協の海外研修の報告書の公開ページにLibrarianMapへのリンクを貼っておくなどの使い方ができて便利だし、使ってもらえるようになるのではないかな。
- ・トップページとは違う形で地図部分をさらに活用できるとよい。
- ・LibrarianMapの規模感（機関や登録者数など）が一目で分かるとよい。
- ・FAQのページがあるとよい。

## 4.事業として

### 4.1.事業としてのLM企画の印象

- ・単純に面白い企画だと思うから走り出したその先を見てみたい。
- ・こんなにすごい企画を持ってくると思わなかった。経費をかけずにできるというのも素晴らしい！



- ・若手ばかりなのにすごいことやってるね！
- ・今後、実際の公開に向けて進むにつれ、周りからは、注意や指摘のほうが増えてしまうかと思うが、取り組み（発想）は、素晴らしい。
- ・国大図協の事業計画と絡めたあたりは、国大図協から表彰されてもよいのでは（ほっといたら、なんの進展もないかもしれない事業計画に、具体的なアクションを提示してあげているので）。

#### 4.2.事業としての今後

【まずは2-3年やってみてはどうか】

- ・複数年の事業として継続していくのであれば、ありかと思う。例えば、2年度の事業として始めて、今年度のメンバーが継続して運営し、2年度後に再評価をし、結果がよければ地区の事業として継続し、悪ければ打ち切る、など。
- ・3年回せば何とかなる！！
- ・「まずは2年」であることは、データ登録をお願いする際にもはっきり伝えておいた方がよさそう。

【成果の測り方を検討しておくことが必要】

- ・2年後、何をもって「うまくいっている」とするのか。成果の測り方を考えておく必要がある。
- ・具体的な成功例を出さないと助成事業としてのLibrarianMapの存在意義を主張するのは難しいのでは。
- ・つながり作りの具体的なモデルケースを見せてほしい。
- ・2年後以降の評価のためにも成果の記録は残しておかなければならない。どのような機能を使って評価・検証するか検討すべき。

## LibrarianMap 利用規約 (2019年3月20日現在)

LibrarianMapは、国立大学図書館協会(以下「国大図協」)の平成30年度地区助成を受けて、東京地区協会の企画メンバー(以下「運営」)が中心となり運営するサービスです。この利用規約は、LibrarianMapの利用条件を定めるものです。LibrarianMapの利用登録を完了した人(以下「利用者」)および利用登録をせずにLibrarianMapを閲覧する人(以下「閲覧者」)には、この利用規約に従って、LibrarianMapをご利用いただきます。この利用規約は、運営以外の者は改変してはならないものとします。

### ===第1条(適用)===

1. この利用規約は、利用者または閲覧者と運営との間のLibrarianMap利用に関わる一切の關係に適用されるものとします。
2. 運営は、利用者、閲覧者の対象範囲を、別途LibrarianMap上に常に公開します。

### ===第2条(利用登録)===

1. 登録希望者が運営の定める方法によって利用登録を申請し、運営がこれを承認することによって、利用登録が完了するものとします。
2. 運営は、利用登録の申請者に以下の事由があると判断した場合、利用登録の申請を承認しないことがあり、その理由については一切の開示義務を負わないものとします。
  - (1) 利用登録の申請に際して虚偽の事項を届け出た場合
  - (2) この利用規約に違反したことがある者からの申請である場合
  - (3) 未成年者、成年被後見人、被保佐人または被補助人のいずれかであり、法定代理人、後見人、保佐人または補助人の同意等を得ていなかった場合
  - (4) 反社会的勢力等(暴力団、暴力団員、右翼団体、反社会的勢力、その他これに準ずる者を意味する)である、または資金提供その他を通じて反社会的勢力等の維持、運営もしくは経営に協力もしくは関与する等反社会的勢力との何らかの交流もしくは関与を行っている
  - (5) その他、運営が利用登録を相当でないと判断した場合

### ===第3条(個人情報の取り扱い)===

運営は、別途定めるプライバシーポリシーに従って、利用者の個人情報を取り扱います。

===第4条 ( 利用者名およびパスワードの管理 ) ===

1. 利用者は、自己の責任において、LibrarianMapの利用者名およびパスワードを管理するものとします。
2. 利用者は、いかなる場合にも、利用者名およびパスワードを第三者に譲渡または貸与することはできません。運営は、利用者名とパスワードの組み合わせが登録情報と一致してログインされた場合には、その利用者名を登録している利用者自身による利用とみなします。

===第5条 ( 禁止事項 ) ===

利用者および閲覧者は、LibrarianMapの利用にあたり、以下の行為をしてはなりません。

- ( 1 ) 法令または公序良俗に違反する行為
- ( 2 ) 犯罪行為に関連する行為
- ( 3 ) 運営のサーバーまたはネットワークの機能を破壊したり、妨害したりする行為
- ( 4 ) 運営のサービスの運営を妨害するおそれのある行為
- ( 5 ) 他の利用者に関する個人情報等を収集または蓄積する行為
- ( 6 ) 自分以外の人間に成りすます行為
- ( 7 ) 自分以外の人間に関連する情報で、公開されていない情報を、本人の同意なく投稿する行為
- ( 8 ) 利用規約、プライバシーポリシー等、運営が改変を禁じたページを許可なく改変する行為
- ( 9 ) 運営のサービスに関連して、反社会的勢力に対して直接または間接に利益を供与する行為
- ( 10 ) 運営、他の利用者または第三者の知的財産権、肖像権、プライバシー、名誉その他の権利または利益を侵害する行為
- ( 11 ) 過度に暴力的な表現、露骨な性的表現、差別につながる表現、自殺、自傷行為、薬物乱用を誘引または助長する表現、その他反社会的な内容を含み他人に不快感を与える表現を、投稿または送信する行為
- ( 12 ) 営業、宣伝、広告、勧誘、その他営利を目的とする行為 ( 運営の認めたものを除く )、性行為やわいせつな行為を目的とする行為、嫌がらせや誹謗中傷を目的とする行為、その他LibrarianMapが予定している利用目的と異なる目的でLibrarianMapを利用する行為
- ( 13 ) 宗教活動または宗教団体への勧誘行為
- ( 14 ) その他、運営が不適切と判断する行為

===第6条 ( LibrarianMapのサービスの提供の停止等 ) ===

1. 運営は、以下のいずれかの事由があると判断した場合、利用者および閲覧者に事前に通知することなくLibrarianMapのサービスの全部または一部の提供を停止または中断することができるものとします。

( 1 ) LibrarianMapにかかるコンピュータシステムの保守点検または更新を行う場合

( 2 ) 地震、落雷、火災、停電または天災などの不可抗力により、LibrarianMapのサービスの提供が困難となった場合

( 3 ) コンピュータまたは通信回線等が事故により停止した場合

( 4 ) その他、運営がLibrarianMapの提供が困難と判断した場合

2. 運営は、LibrarianMapの提供の停止または中断により、利用者または第三者が被ったいかなる不利益または損害について、理由を問わず一切の責任を負わないものとします。

===第7条 ( 著作権 ) ===

1. 利用者は、自ら著作権等の必要な知的財産権を有するか、または必要な権利者の許諾を得た文章、画像や映像等の情報のみ、LibrarianMapを利用し、投稿または編集することができるものとします。

2. 利用者がLibrarianMapを利用して投稿または編集した文章、画像、映像等の著作権については、当該利用者その他既存の権利者に留保されるものとします。ただし、利用者自らのアカウントに紐づけられた利用者ページ以外の記載は、運営や他の利用者が自由に編集・削除できるものとします。

3. 前項本文の定めるものを除き、LibrarianMapおよびLibrarianMapに関連する一切の情報についての著作権およびその他知的財産権はすべて運営または運営にその利用を許諾した権利者に帰属し、利用者は無断で複製、譲渡、貸与、翻訳、改変、転載、公衆送信 ( 送信可能化を含む )、伝送、配布、出版、営業使用等をしてはならないものとします。

===第8条 ( 利用制限および登録抹消 ) ===

1. 運営は、以下の場合には、事前の通知なく、投稿データを削除し、利用者に対してLibrarianMapの全部もしくは一部の利用を制限しまたは利用者としての登録を抹消することができるものとします。

( 1 ) この利用規約のいずれかの条項に違反した場合

( 2 ) 登録事項に虚偽の事実があることが判明した場合

(3) 運営からの問い合わせその他の回答を求める連絡に対して30日間以上応答がないか、アカウント情報の連絡先が有効でない場合

(4) 第2条第2項各号に該当する場合

(5) その他、運営がLibrarianMapの利用を適当でない判断した場合

2. 前項各号のいずれかに該当した場合、利用者は、当然に運営に対する一切の債務について期限の利益を失い、その時点において負担する一切の債務を直ちに一括して弁済しなければなりません。

3. 運営は、本条に基づき運営が行った行為により利用者に生じた損害について、一切の責任を負いません。

#### ===第9条 (保証の否認および免責事項)===

1. 運営は、LibrarianMapに事実上または法律上の瑕疵 (安全性、信頼性、正確性、完全性、有効性、特定の目的への適合性、セキュリティなどに関する欠陥、エラーやバグ、権利侵害などを含みます。)がないことを明示的にも黙示的にも保証していません。

2. 運営は、LibrarianMapに起因して、利用者または第三者に生じたあらゆる損害について一切の責任を負いません。

3. 運営は、LibrarianMapに関して、利用者与其他の利用者または第三者との間において生じた取引、連絡または紛争等について一切責任を負いません。

#### ===第10条 (サービス内容の変更等)===

運営は、利用者に通知することなく、LibrarianMapの内容を変更またはLibrarianMapの提供を中止することができるものとし、これによって利用者に生じた損害について一切の責任を負いません。

#### ===第11条 (利用規約の変更)===

1. 運営は、必要と判断した場合には、いつでもこの利用規約を変更することができるものとします。

2. 運営が別途定める場合を除いて、変更後の利用規約は、本ウェブサイトに掲載したときから効力を生じるものとします。ただし、運営の持つ管理者アカウント以外によって許可なく利用規約が改変された場合は、管理者アカウントによる最後の版が効力を持つものとします。

===第12条 ( 通知または連絡 ) ===

運営は、一定の方法で利用者との間の通知または連絡を行います。

===第13条 ( 権利義務の譲渡の禁止 ) ===

利用者は、運営の書面による事前の承諾なく、利用契約上の地位またはこの利用規約に基づく権利もしくは義務を第三者に譲渡し、または担保に供することはできません。

===第14条 ( 準拠法・裁判管轄 ) ===

この利用規約の解釈にあたっては、日本法を準拠法とします。

-----

この利用規約は2019年2月5日に発効しました。

## LibrarianMap プライバシーポリシー (2019年3月20日現在)

LibrarianMapは、国立大学図書館協会(以下「国大図協」)の平成30年度地区助成を受けて、東京地区協会の企画メンバー(以下「運営」)が中心となり運営するサービスです。運営は、以下のとおりプライバシーポリシーを定めます。このプライバシーポリシーは、運営以外の者は改変してはならないものとします。

### ===第1条(個人情報)===

- 1.個人情報とは、個人情報保護法にいう「個人情報」を指すものとし、氏名、所属、役職、連絡先その他の記述等により特定の個人を識別できる情報を指します。
- 2.前項の「個人情報」のうち、LibrarianMapの利用登録をする人(以下「利用者」)がアカウント作成をする際に登録が必要な個人情報、運営に対するお問い合わせに含まれる個人情報、その他運営が収集した個人情報等、特定される本人と運営にしか知り得ない情報を「非公開情報」といいます。
- 3.第1項の「個人情報」のうち、利用者がマイページ(利用者ページ)等において公開することを前提として登録した情報を「公開情報」といいます。「非公開情報」と重複する情報については、本項が優先され、「公開情報」として取扱います。

### ===第2条(非公開情報の収集方法)===

- 1.運営は、利用者がアカウント作成をする際、氏名、メールアドレス、パスワードといった個人情報をお尋ねします。
- 2.運営は、利用者について、閲覧したページの履歴、検索した検索キーワード、利用日時、利用方法、利用環境(携帯端末を通じてご利用の場合の当該端末の通信状態、利用に際しての各種設定情報なども含みます)、IPアドレス、クッキー情報、位置情報、端末の个体識別情報などの履歴情報および特性情報を、利用者がLibrarianMapを利用しまたはページを閲覧する際に収集することがあります。

### ===第3条(非公開情報を収集・利用する目的)===

- 1.運営は、利用者からお預かりした非公開情報は、利用者が本人であることの確認や運営からの連絡、お問い合わせに対する回答に利用します。

2.運営は、利用者からお預かり・収集した非公開情報を、サービスの利用状況調査や環境向上のために利用することがあります。

===第4条 ( 非公開情報の第三者提供 ) ===

運営は、次に掲げる場合を除いて、第三者に非公開情報を提供することはありません。

- ( 1 ) 本人の同意がある場合
- ( 2 ) 法令に基づく場合
- ( 3 ) 人の生命、身体または財産の保護のために必要がある場合
- ( 4 ) 公衆衛生の向上または児童の健全な育成の推進のために特に必要がある場合
- ( 5 ) 国の機関もしくは地方公共団体またはその委託を受けた者が法令の定める事務を遂行することに対して協力する必要がある場合であって、本人の同意を得ることにより当該事務の遂行に支障を及ぼすおそれがあるとき
- ( 6 ) 統計等、個人が特定できないような形に編集した場合

===第5条 ( 非公開情報の開示 ) ===

運営は、本人から非公開情報の開示を求められたときは、本人に対して開示します。ただし、開示することにより次のいずれかに該当する場合は、その全部または一部を開示しないこともあり、開示しない決定をした場合には、その旨を通知します。

- ( 1 ) 本人または第三者の生命、身体、財産その他の権利利益を害するおそれがある場合
- ( 2 ) 運営の業務の適正な実施に著しい支障を及ぼすおそれがある場合
- ( 3 ) その他法令に違反することとなる場合

===第6条 ( 非公開情報の訂正および削除 ) ===

1.利用者は、運営の持つ自己の非公開情報が誤った情報である場合には、非公開情報の訂正または削除を請求することができます。

2.運営は、利用者から前項の請求を受けてその請求に応じる必要があると判断した場合には、当該非公開情報の訂正または削除を行い、これを利用者へ通知します。

===第7条 ( 非公開情報の利用停止等 ) ===

運営は、本人から、非公開情報の利用の停止または消去を求められた場合には、非公開情報の利用停止または消去等を行い、その旨を本人へ通知します。

===第8条 ( 公開情報 ) ===



- 1.利用者は、LibrarianMapのサービスを通じて自身が提供する情報に責任を持つ必要があります。公開情報に第三者の個人情報が含まれる場合は、事前に必ず本人の了承を得てください。
- 2.LibrarianMap上に作成された記事の情報は、削除しても、履歴から閲覧することができます。履歴を完全に削除する場合は、運営に連絡してください。
- 3.LibrarianMapにはID・パスワードによる閲覧制限がかけられていますが、ID・パスワードは国大図協内部に同じものを配布しています。多人数に配布している関係上、セキュリティの保証は低くなってしまいますので、閲覧制限は関係者外の閲覧を完全に防ぐものではなく、あくまで関係者外から閲覧しにくくするものと考え、情報の取り扱いには注意してください。

===第9条 ( プライバシーポリシーの変更 ) ===

- 1.運営は、必要と判断した場合には、このプライバシーポリシーをいつでも変更することができます。
- 2.運営が別途定める場合を除いて、変更後のプライバシーポリシーは、本ウェブサイトに掲載したときから効力を生じるものとします。ただし、運営の持つ管理者アカウント以外によって許可なくプライバシーポリシーが改変された場合は、管理者アカウントによる最後の版が効力を持つものとします。

-----

このプライバシーポリシーは、2019年2月5日に発効しました。

## 平成30年度の活動記録

5/30	企画・運営メンバー(安達(東京大学), 若山(東京藝術大学), 森澤(東京工業大学), (東京海洋大学), 石橋(お茶の水女子大学), 三村(国立情報学研究所))決定
6/7-11	世話役・茂出木(東京工業大学)と企画メンバーとの個別面談(本事業でやりたいこと等の意向調査)
6/12	メッセージツール「Slack」による意見交換開始
6/12	Googleドライブによる資料共有開始
6/29	第1回(キックオフ)ミーティング(各メンバー企画プレゼン&企画案決定)
7/5	LibrarianMap公開データ登録候補者リストの共有及び更新開始(各メンバーの知り合いに協力の呼びかけ)
7/10	事業計画書(案)とLibrarianMapのイメージ&切(各自自分の案を作成)
7/23	理事館(一橋大学)への事前説明
7/24	理事館(東京大学)への事前説明
7/25	第2回ミーティング(今後の方針の決定, 完成イメージの共有)
7/29	テストサーバー(さくらインターネット)契約開始(~11/30)
7/30	MediaWikiのテストインストール
8/23	田辺浩介氏(物質・材料研究機構 統合型材料開発・情報基盤部門 材料データプラットフォームセンター 主任エンジニア)から技術指導を受けた勉強会
8/29	事業計画書及び請求書の提出
9/7	地区協会事業助成費受領
9/14	LibrarianMap(β版)試作及びテスト登録開始
9/27	第3回ミーティング(オープンディスカッションの開催及び東京地区会員館への個別訪問説明の検討, Wiki版LibrarianMapの詳細決定, ログマーク及びドメインの検討)
10/2	Facebook投稿開始
10/4	東京地区会員館に「オープンディスカッション」開催通知メールを送信
10/4-12	東京地区会員館への個別訪問説明
10/9	国大図協MLに「オープンディスカッション」開催通知メール
10/15-11/5	各企画メンバーによる自館での企画説明
10/21	本サーバ(XSERVER)契約開始(契約期間: 2年)
10/23	オープンディスカッション開催(@東京工業大学, 15:00-16:30, 28名参加)
11/2	本サーバ(XSERVER)へのシステム及びデータ移行

11/9	東京大学附属図書館研修プロジェクト開催(企画説明及び意見交換)
11/16	第4回ミーティング(LibrarianMapの方向性の最終決定, スケジュール及び分担確認)
11/28-12/19	「利用規約(案)」, 「プライバシーポリシー(案)」策定
12/11	国大図協東京地区協会事務連絡会議での経過報告
12/20 , 2019/1/5	「利用規約(案)」, 「プライバシーポリシー(案)」の内容確認を弁護士に依頼
1/8	東京地区会員館にLibrarianMap登録開始のお知らせ & 登録依頼メールを送信(登録を希望しない方へはアンケート協力を依頼)
1/21	第5回ミーティング(平成30年度ゴール及び平成31年度への課題の確認, 成果報告の検討)
2/5	「利用規約」, 「プライバシーポリシー」の完成
3/13	事業報告書の提出
3/26(予定)	LibrarianMapをβ版からプロトタイプ版へ切り替え